

# クレディセゾンの目指す姿

2025年3月 個人投資家様向け会社説明会

株式会社クレディセゾン

東証プライム市場上場（証券コード :8253）

## 本日のアジェンダ

1. クレディセゾンについて
2. 2030年に目指す姿  
中期経営計画（FY24-26）
3. 主要事業の成長戦略
4. 株主還元
5. 財務戦略

# 1. クレディセゾンについて

# 会社概要

CREDIT SAISON

会社概要	株式会社クレディセゾン
会社設立	1951年（昭和26年）5月1日
資本金	759億29百万円
上場証券取引所	東京（プライム市場）
証券コード	8253
業種	その他金融   JPX-NIKKEI 400
社員数	3,764名

\*2024年9月末時点

## 今よりもっと便利で豊かな持続可能な社会の実現

### 1980年代<日本>

当時クレジットカードをもつことが  
難しかった女性や若者へのカード発行



### 現在<グローバル>

十分な金融サービスを受けられていない  
アンダーサーブド層の生活向上＝

**ファイナンシャル・インクルージョンの  
実現を目指す**

\*アンダーサーブド層…経済的、地理的な理由やインフラなどの問題から、  
既存の金融サービスにアクセスできない、または不便を感じている人々・企業

# これまでのあゆみ

1980年代から開始した  
クレジットカードをメインとしたペメント事業に加え、  
2000年代からはファイナンス事業、  
2010年代からグローバル事業を本格化

月賦百貨店  
「緑屋」創業

1951年

創業

1980年

ペイメント事業  
への転換

2000年代

ファイナンス事業  
本格化

2010年代

グローバル事業  
加速

1年前倒しで達成  
事業利益目標  
700億円  
(FY23・719億円)

FY22-FY23  
前中期経営計画

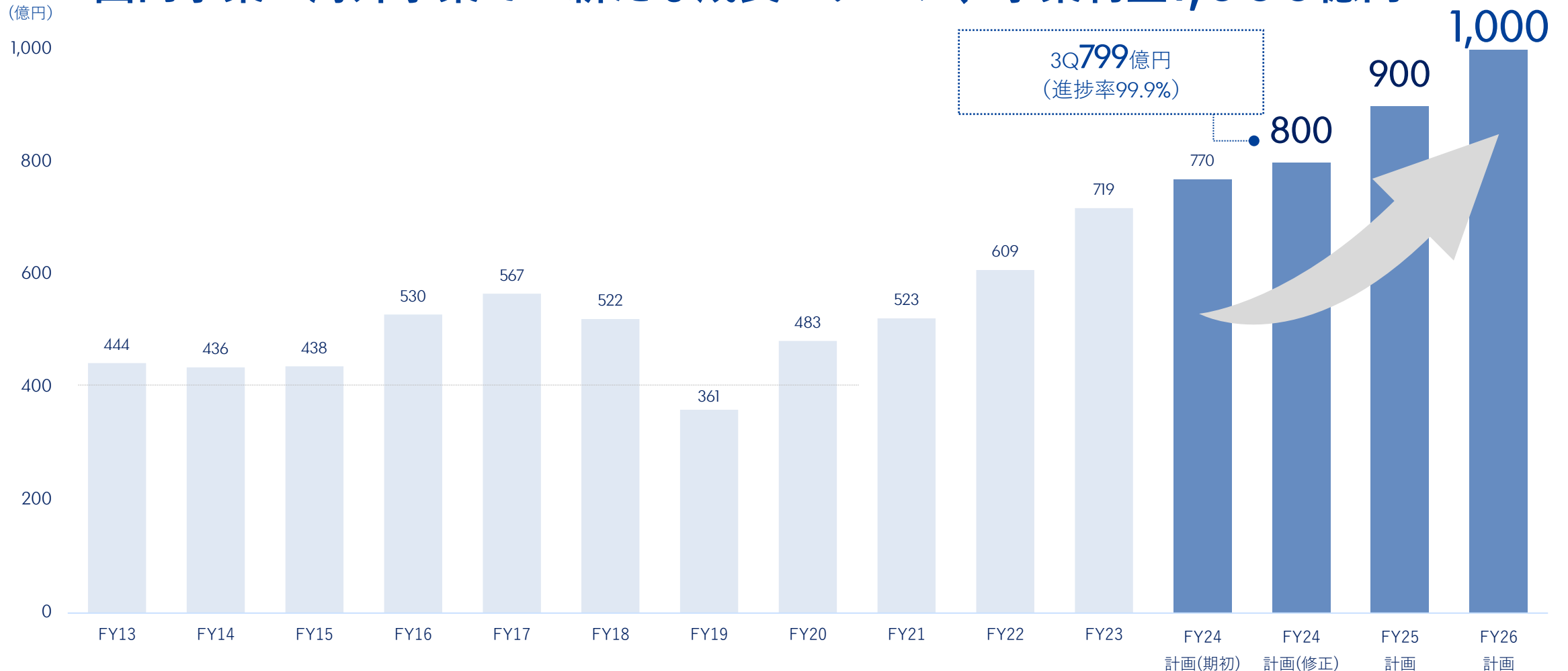
事業利益  
1,000億円 &  
ROE9.5%  
PBR1倍超・  
時価総額1兆円

FY24-26  
新中期経営計画

# 連結事業利益の推移

ペイメント（クレジット事業）一本足から脱却し

国内事業＋海外事業での新たな成長ステージ、事業利益1,000億円へ



## 2. 2030年に目指す姿 中期経営計画（FY24-26）

※2024年5月公表



## GLOBAL NEO FINANCE COMPANY

～金融をコアとしたグローバルな総合生活サービスグループ～

単なるファイナンスカンパニーの領域に留まることなく  
パートナーシップで創る「セゾン・パートナー経済圏」で  
グローバルにシナジーを発揮していく

01

国内・海外の  
ターゲット顧客層において  
存在感を発揮している

02

金融サービスをコアとする  
総合生活サービスを展開している

03

グローバルな  
金融事業プレイヤーとして  
“セゾン”が認知されている

# 中期経営計画の目標と重点テーマ



## 新中期経営計画 (FY24-26)

事業利益1,000億円 & ROE9.5%

企業価値の向上

PBR1倍超・時価総額1兆円

### 重点テーマ

- 01.国内事業の徹底的な筋肉質化
- 02.各事業を加速させる銀行機能の活用と金融機能の増強
- 03.インドを起点としたユニークなグローバル展開の進化と、国内⇔海外の双方向の融合
- 04.事業戦略と連動した社員の成長と経営基盤の強化

前中期経営計画  
(FY22-23)

事業利益719億円

### 3. 主要事業の成長戦略

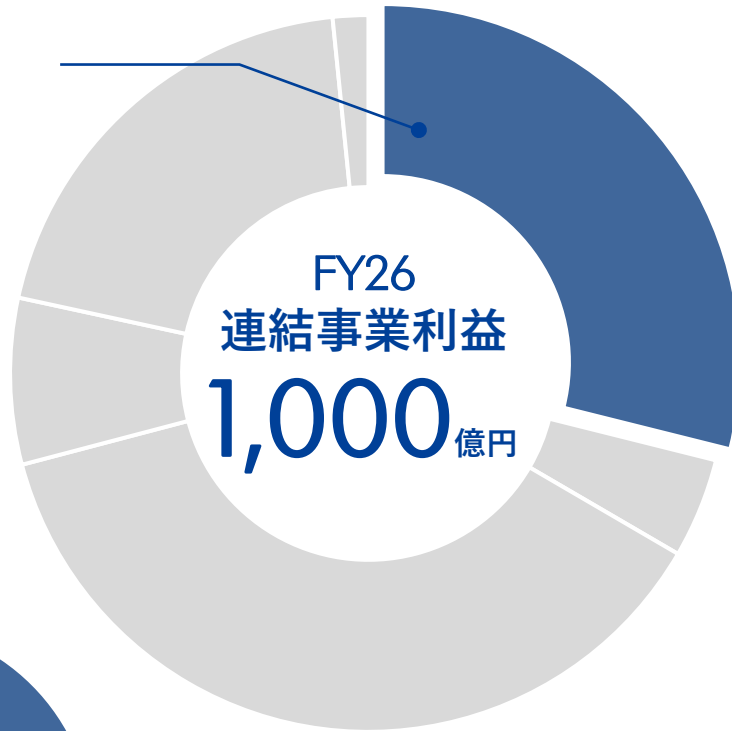
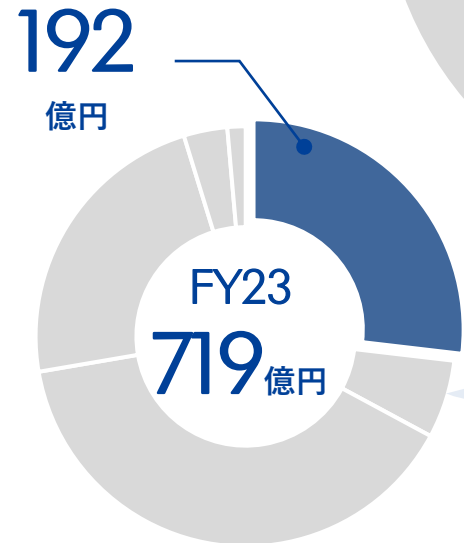
ペイメント事業

ファイナンス事業

グローバル事業

# ペイメント事業

ペイメント  
事業利益  
289億円



+97  
億円  
(伸長率約150%)

FY24-3Q 270億円  
(FY24計画 275億円)

新中期経営計画の  
重点テーマ

プレミアム戦略（会員構造変革）による  
**収益基盤の強化**

# クレディセゾンの強みを活かしたプレミアム戦略の推進

CREDIT SAISON

## ランクアップによるプレミアム会員層の拡大

- ✓ 高稼働顧客へのインビテーション訴求  
セゾンデータプラットフォーム（CSDX）を活用したランクアップ訴求対象の分析や、アーリーエンゲージメントメールの効果測定などを実施
- ✓ 商品性の向上  
付帯サービスの充実や柔軟な限度額設定など、顧客ロイヤリティの向上  
AMEXカードは同一カード番号でのランクアップが可能になり利便性向上

富裕層・法人（個人事業主・SME）マーケットの拡大

収益性向上

ダイヤモンドAMEX



プラチナAMEX・  
プラチナビジネス・  
個人事業主/SME



## プレミアムカード



一般カード  
プロパー/提携



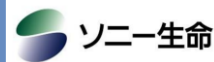
将来の  
プレミアム  
会員

- ✓ 新規アライアンスの提案活動を拡大・  
既存提携先との取り組み深耕

**CAINZ** 24年11月 リリース

- ✓ 顧客ニーズに合わせたクロスセル

全国5,500名超のライフプランナーによる  
サービス提供



- ・セゾンカード会員向けライフプラン  
コンサルティングサービス提供
- ・ビジネスカード×法人関連商材

- ✓ 提携パートナーとのリレーション強化



SME・個人事業主向けAMEXカードに加え  
24年10月個人向けAMEXカードの募集開始

大和証券とお取引のある  
富裕層顧客へのご案内

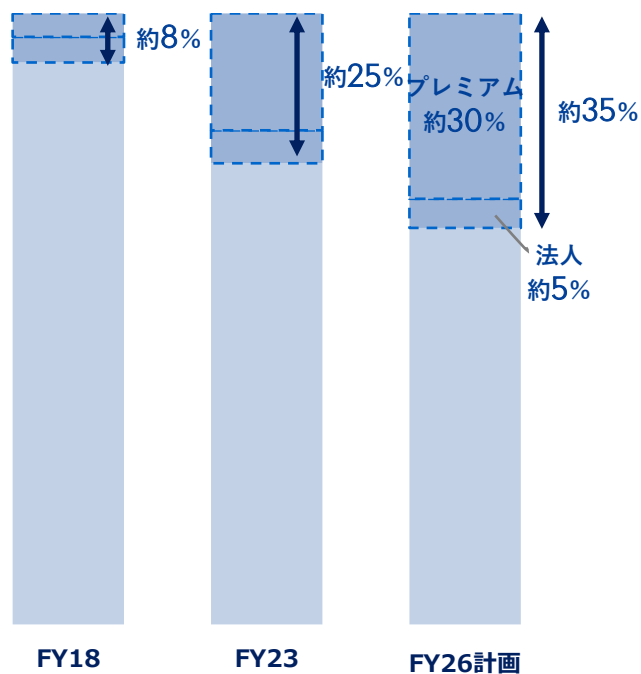
## 新規入会拡大に向けた取り組み

# プレミアム戦略による変化

## 会員構成の変革

### ■カード会員構成比

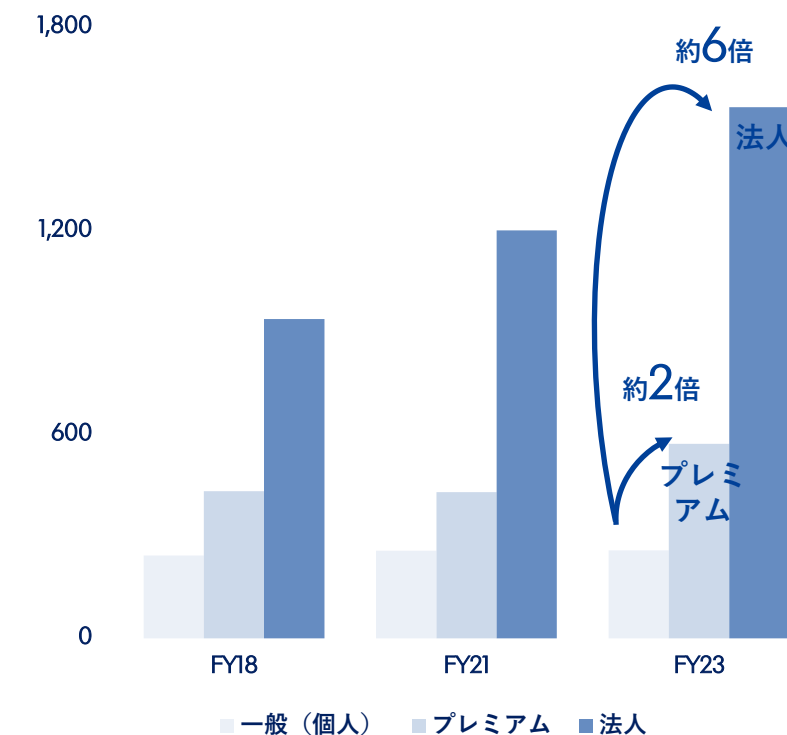
\*稼働会員に占める



## 単価上昇

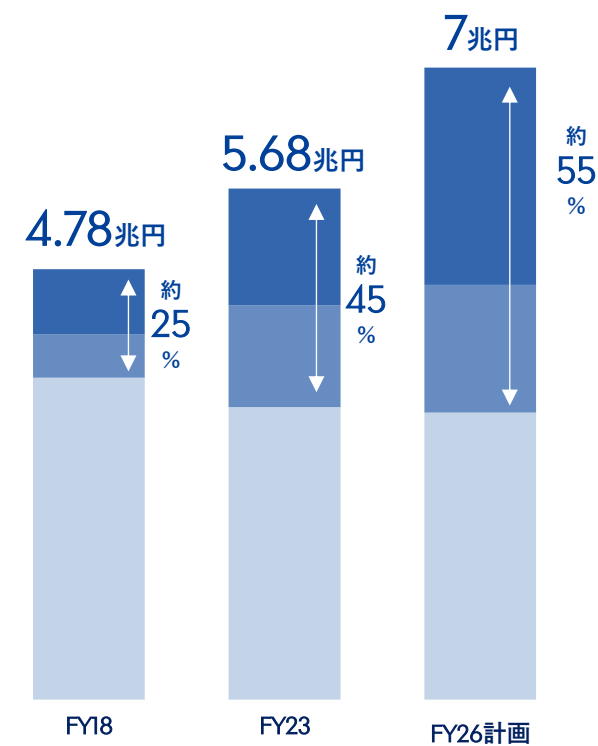
### ■ショッピング客単価(年間平均)

(千円)



## 取扱高拡大

### ■ショッピング取扱高

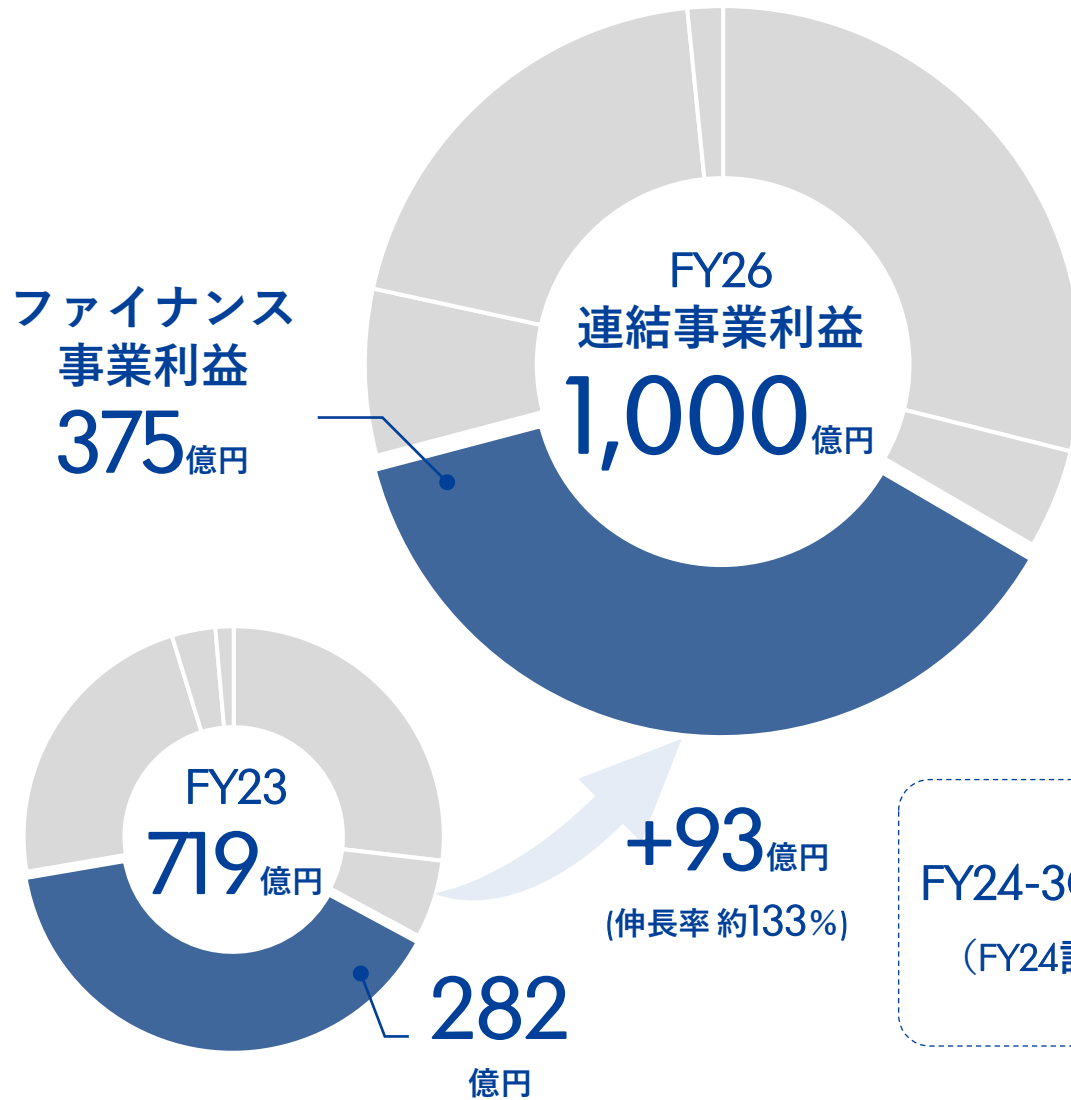


### 3. 主要事業の成長戦略

ペイメント事業

ファイナンス事業

グローバル事業

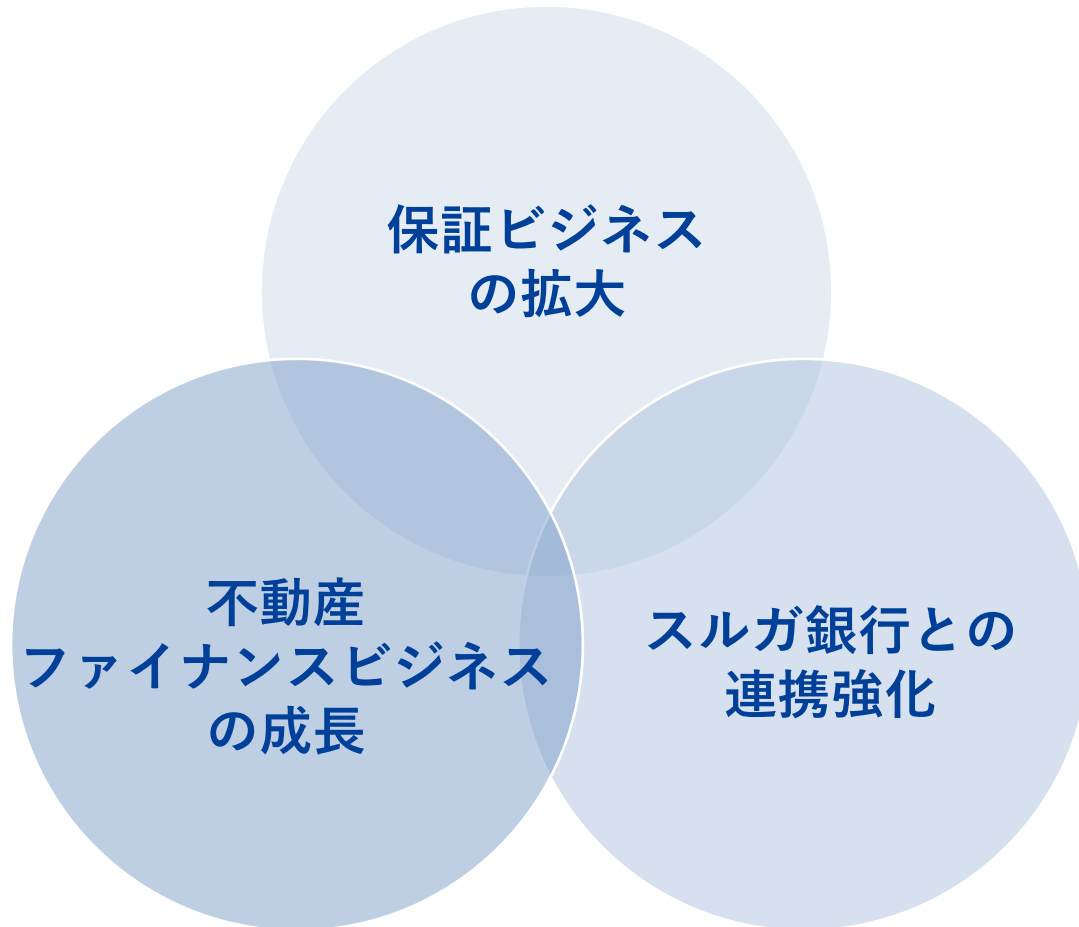


新中期経営計画の  
重点テーマ

グループビジネスによる  
利益の拡大と競争力の向上

FY24-3Q 289億円  
(FY24計画 315億円)





## 保証ビジネス

- ✓ 金融機関のフリーローンの保証業務
- ✓ 住宅ローン保証

## 不動産ファイナンスビジネス

- ✓ 個人向け投資用マンション購入ローン（資産形成ローン）
- ✓ 不動産事業者向けプロジェクト融資 など

## スルガ銀行との連携強化

- ✓ 2023年 資本業務提携を締結
- ✓ コラボレーションローン、住宅ローン保証 など

# 保証ビジネス

## 保証残高の推移

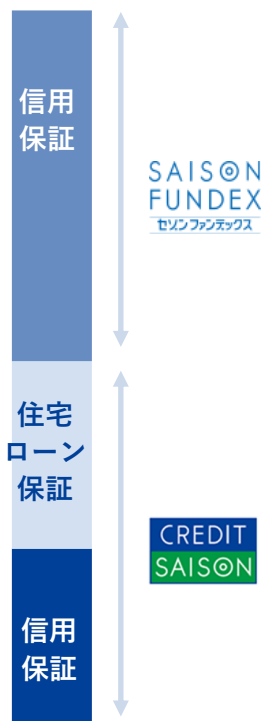
(億円)

10,000

5,000

0

FY21 FY22 FY23 FY24計画 FY25計画 FY26計画



### 保証事業の基本概要

	クレディセゾン		セゾンファンデックス
事業内容	信用保証(無担保)	住宅ローン保証	信用保証(有担保)
対象顧客	個人・ 個人事業主向け	個人・ 個人事業主向け	個人・ 個人事業主・法人向け
提携先数	約400先	30先*	約45先
主要商品	証書貸付型 フリーローンの 保証業務(無担保)	金融機関における クレディセゾン保証付 住宅ローン(有担保)	不動産担保ローンの 保証業務(有担保)

\* 2024年6月末時点

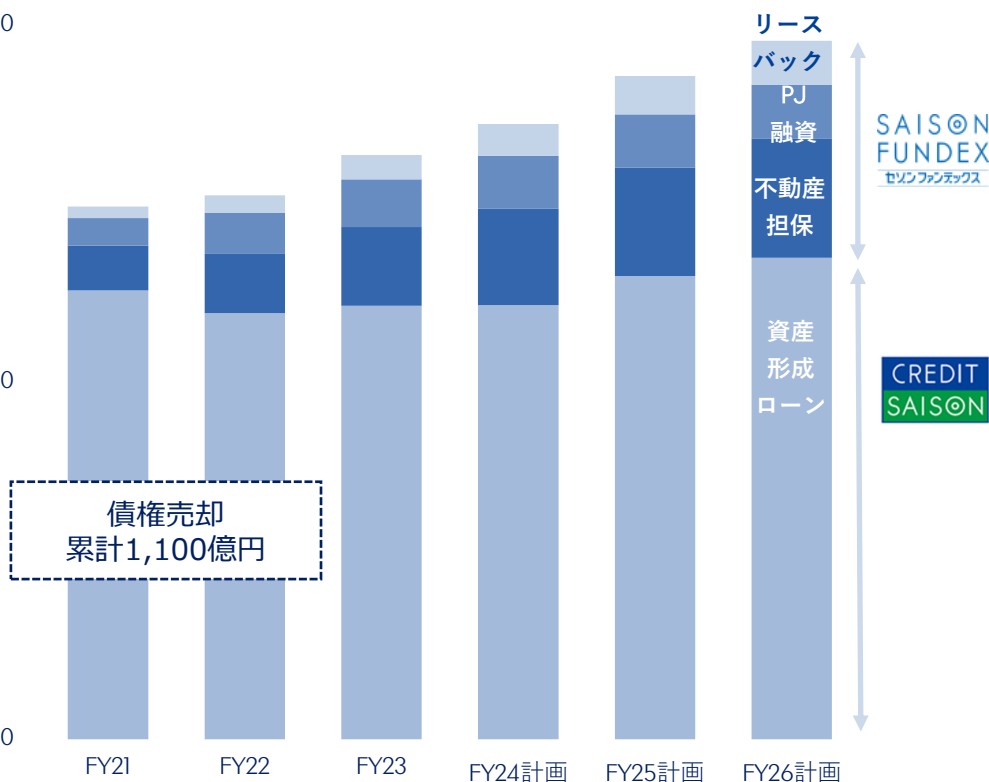
## ■ 債権残高の推移

(億円)

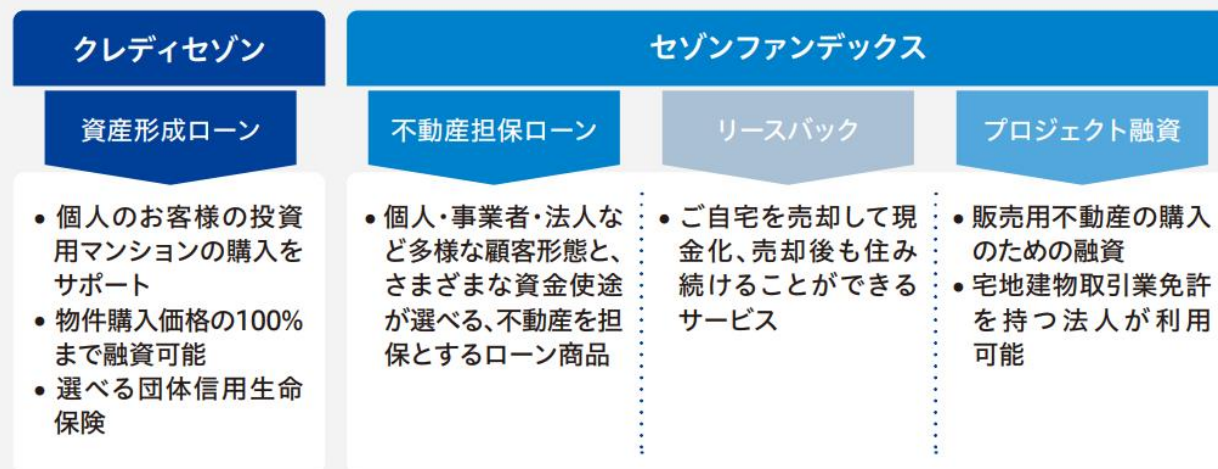
12,000

6,000

0



### ■ 不動産ファイナンス事業の主要な特徴



不動産ファイナンス  
の共同展開

2023年11月

住宅ローン事業  
における連携

2023年10月

「コラボレーションローン」  
の共同提供開始

スルガ銀行で「クレディセゾン  
保証付住宅ローン」取扱いを開始



Non-Bank

「豊富な顧客取引先基盤」  
「即時与信、即時取引で培った審査力」



スルガ銀行

Bank

「顧客との直接対話力」  
「カスタムメイドの審査力」

セゾンプラチナ  
ビジネスAMEX  
カード共同事業化

2024年4月

スルガ銀行  
セゾン支店の設立

優先領域の  
再設定により  
当面延期

## ■ファイナンス領域・新規ローン実行額

\*コラボレーションローン、住宅ローン保証の合計

当初計画  
700  
億円程度/年



FY24-27  
800~850  
億円/年

当初計画を上回る拡大ペースのため計画を見直し

事業領域合計で、5年間（FY23～FY27）  
新規ローン実行額 **3,500** 億円以上を目指す

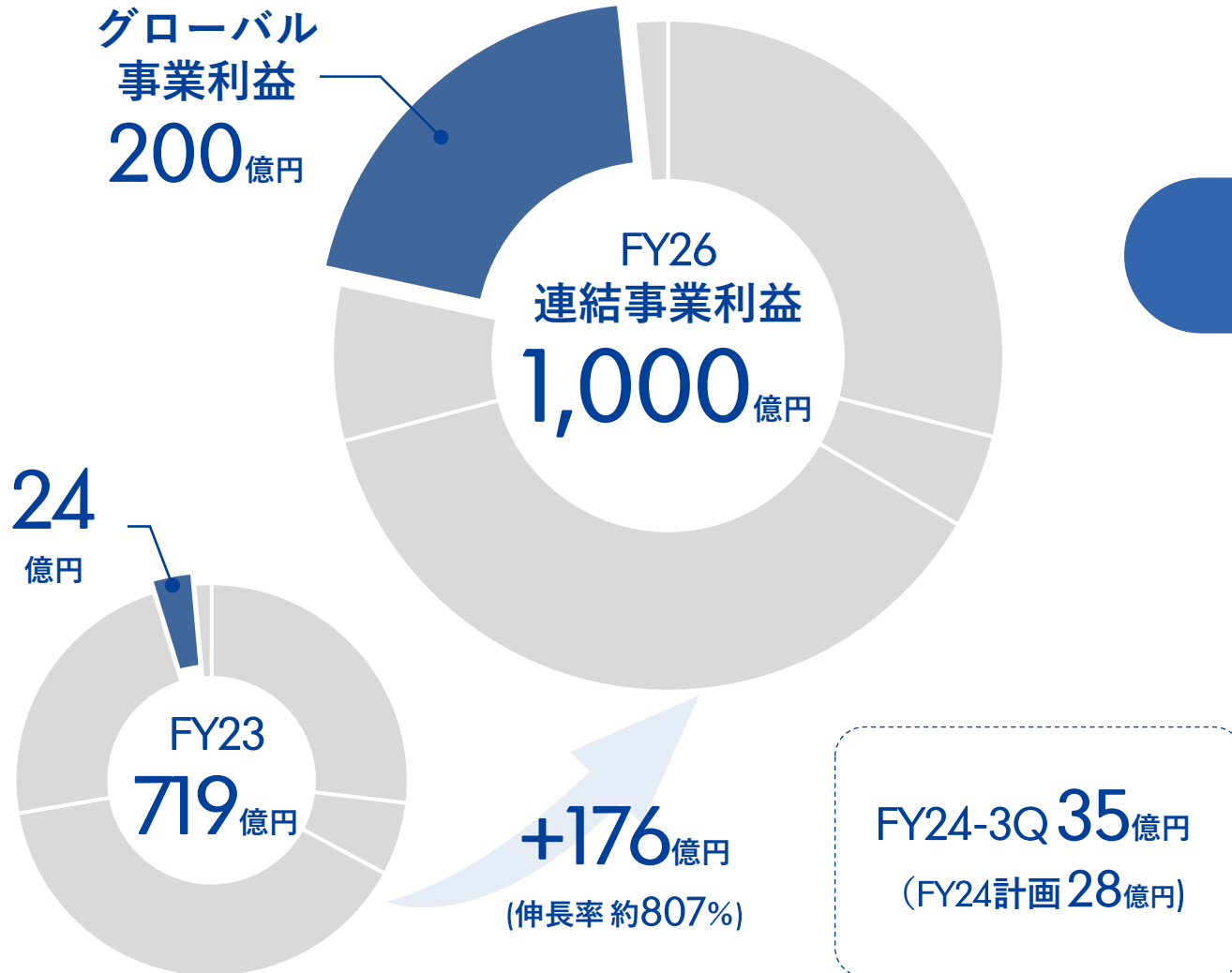
### 3. 主要事業の成長戦略

ペイメント事業

ファイナンス事業

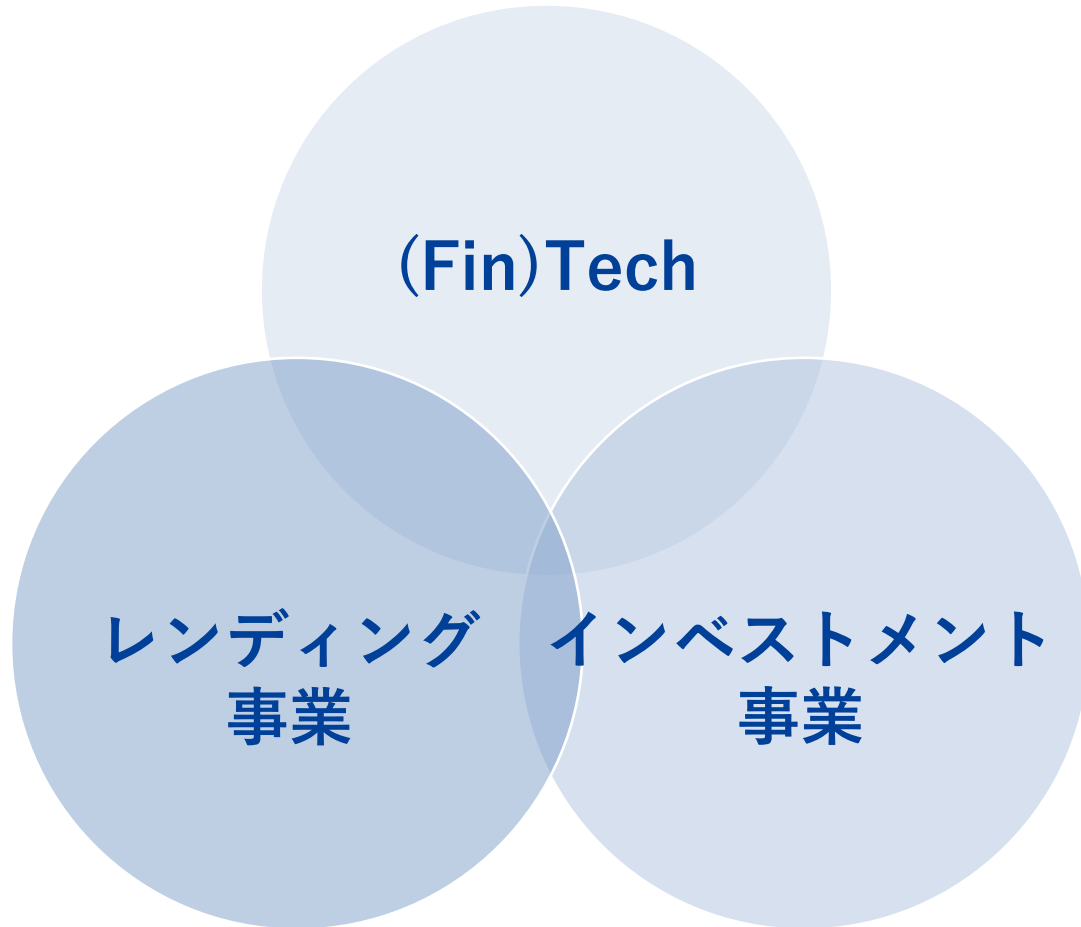
グローバル事業

# グローバル事業



新中期経営計画の  
重点テーマ

インドの拡大と、  
インドを起点としたユニークな  
グローバル展開の進化  
(ラテンアメリカ地域)



## レンディング事業

- ✓ インド・東南アジア・ラテンアメリカ地域にて、アンダーサブド層にフォーカスした貸付
  - ✓ 現地パートナーとの提携による現地ニーズに即したサービスの提供

## インベストメント事業

- ✓ Fintech、Web3領域を中心に有望なスタートアップやVCファンドへの投資

\*アンダーサブド層・・・経済的、地理的な理由やインフラなどの問題から、既存の金融サービスにアクセスできない、または不便を感じている人々・企業

# グローバル事業展開

✓ “(Fin)Tech-led INNOVATION and INCLUSION”をテーマとして、  
レンディング事業とインベストメント事業の両軸で、7ヶ国へ展開





# 成長を担うインド事業

CREDIT SAISON



設立：2018年6月  
従業員：1,300名超（24年12月時点）



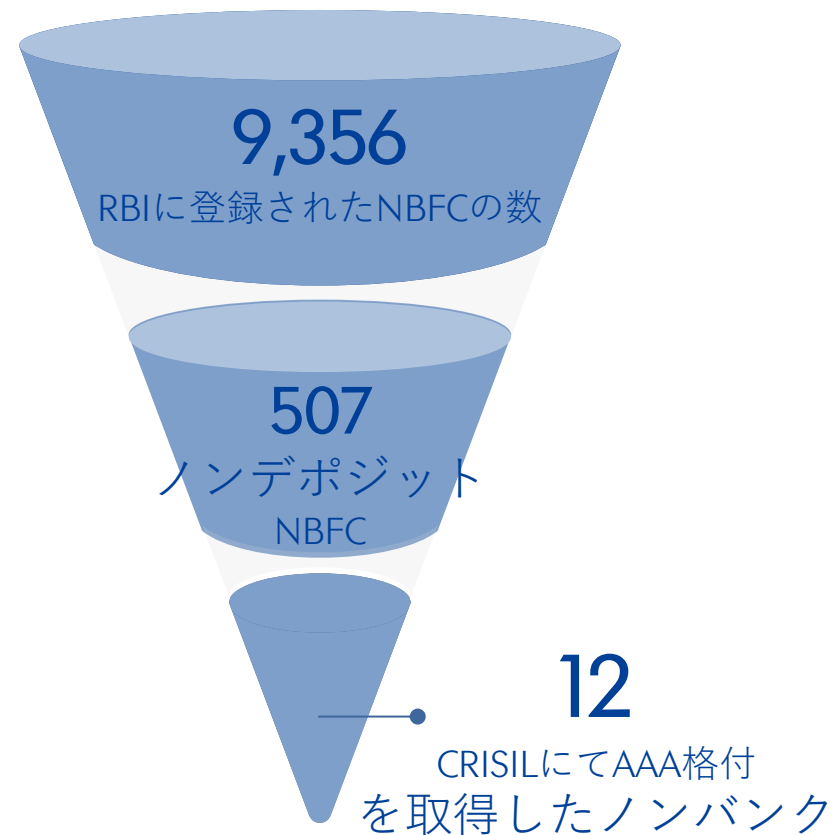
FY2019  
NBFCライセンス取得、事業開始



FY2022  
CRISIL長期格付 AAA取得



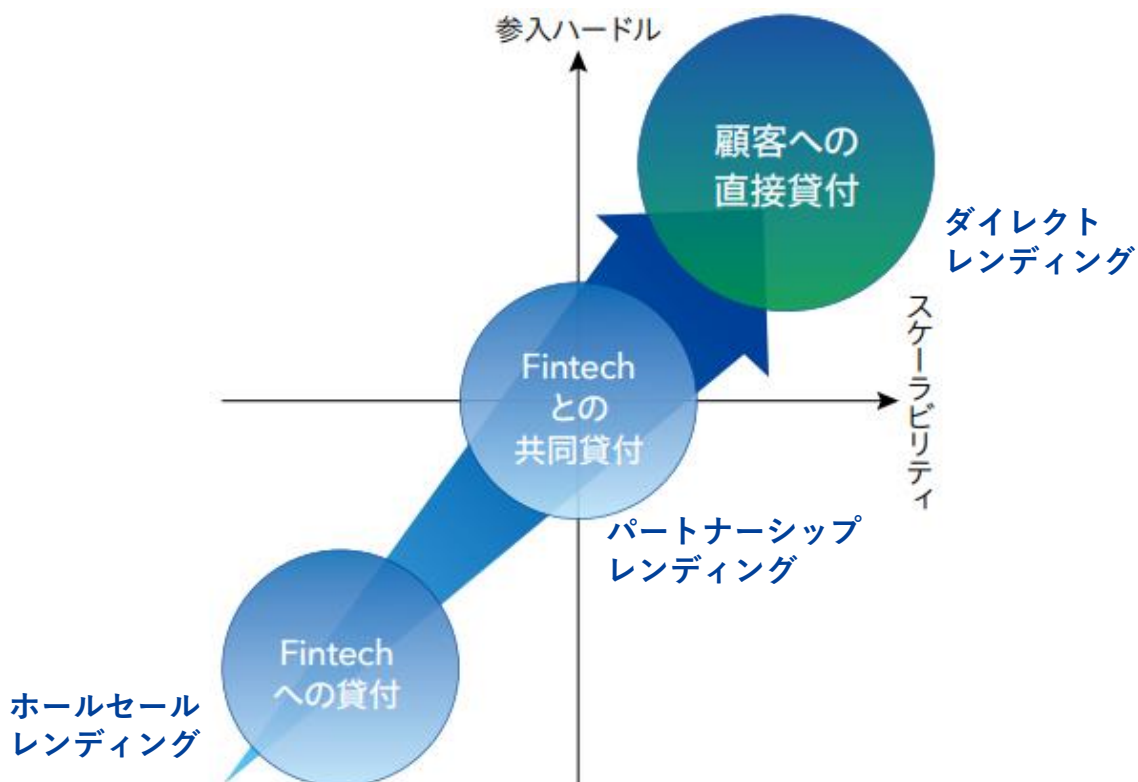
FY2024-3Q  
債権残高3,000億円突破



# ステップ戦略による事業拡大

## ■ BtoBtoC→BtoCのステップ戦略

- ✓ Fintechとの共同貸付を通じデータや知見を獲得
- ✓ 2021年からはその経験をもとに直接貸付を開始



## ■ インドの債権残高



## ■ インドの事業利益貢献

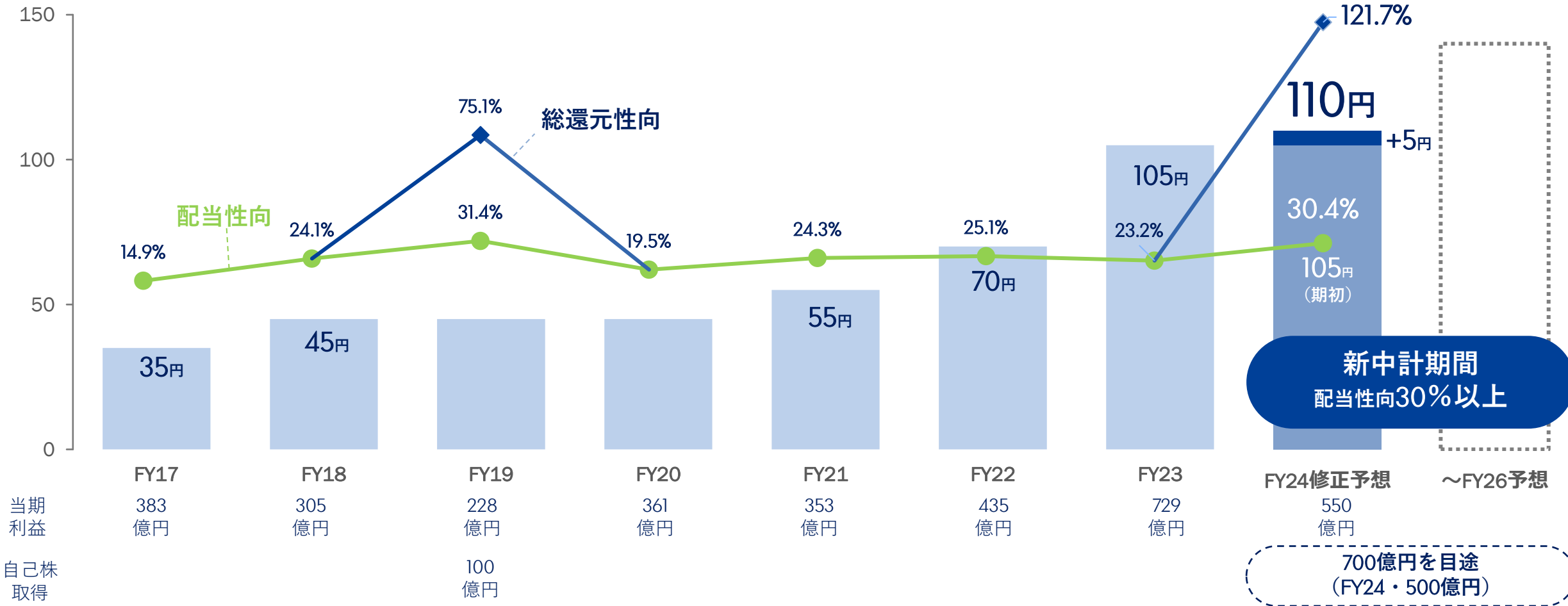


# 4. 株主還元

# 株主還元

✓ 新中期経営計画（FY24-26）では安定的かつ継続的な配当方針を堅持しつつ（過去一度も減配なし）、配当性向は30%以上とする方針。方針に基づき、直近の期末配当予想から普通配当を5円増配し、期末配当金を1株当たり110円とする予定。

(1株配当金:円)



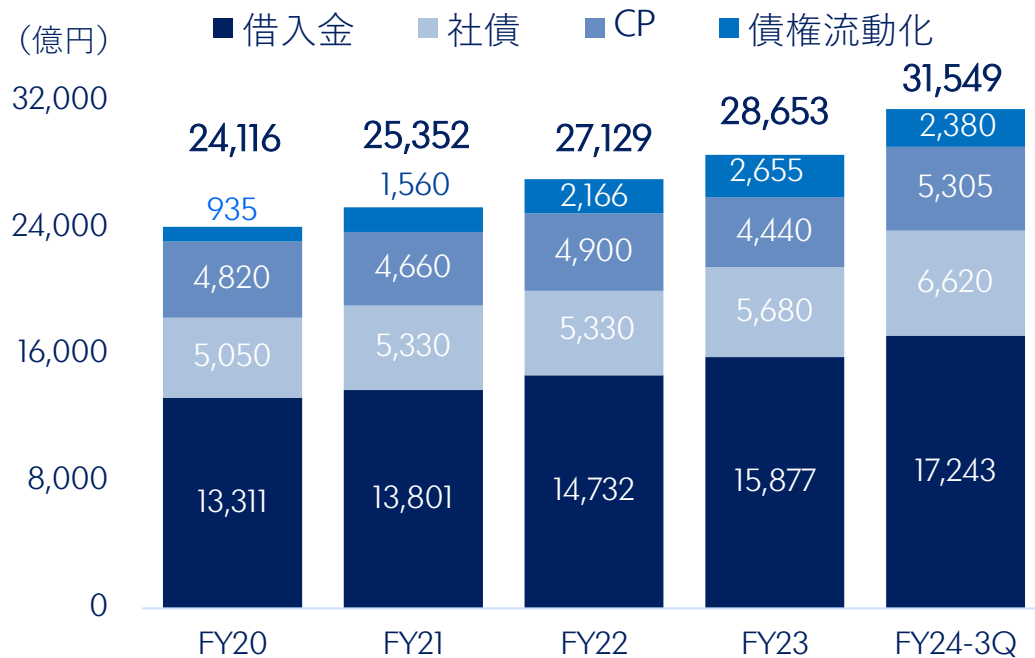
# 5. 財務戦略

## ■健全な財務基盤について

### 信用格付

- ・ R&I A+ ※1996年10月以降 25年以上継続
- ・ JCR AA- ※2025年1月 新規格付取得

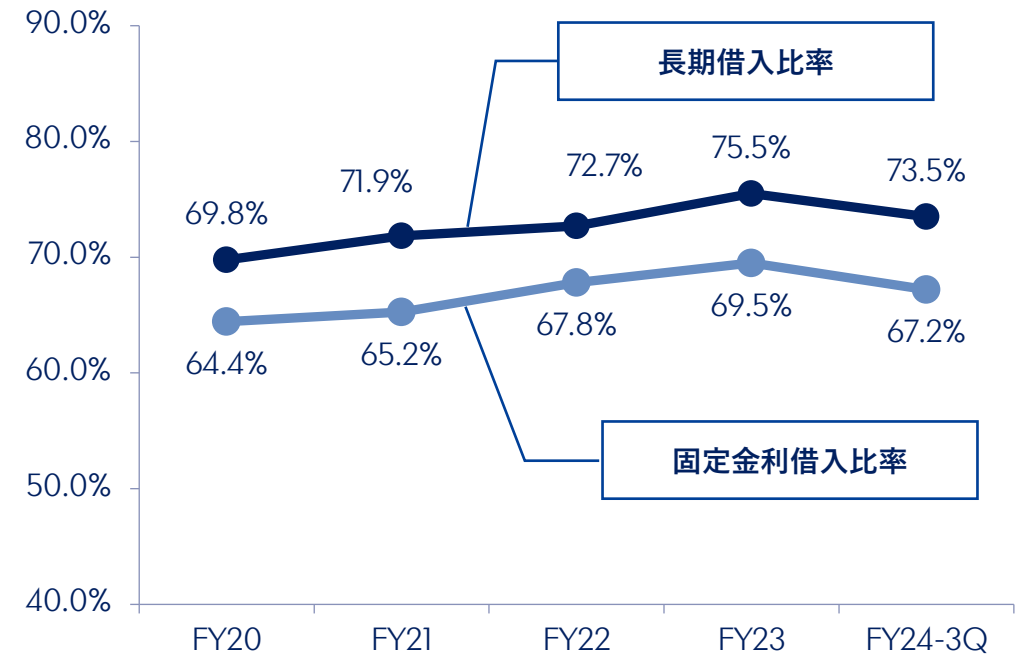
## 【単体】有利子負債残高推移



## ■有利子負債の構造について

- ・ 有利子負債の約7割程度を長期資金で構成
- ・ 固定金利調達は全体の約7割程度で構成
- ・ 流動性補完枠はコミットメントライン等を5,300億円備える

## 【単体】長期・固定借入比率推移



# 本日のまとめ

- クレディセゾンは**ペイメント（クレジットカード）事業一本足から脱却し、**  
**ファイナンス事業やグローバル事業**に事業領域を拡大。  
足元、**事業の3本柱は堅調に成長。**



中期経営計画（FY24-26）では**“持続的な成長”と“収益性の向上”**に向けた戦略で**新しい成長ステージ**に。連結事業利益は年間10%以上\*の高い成長率を目指す。

\*連結事業利益FY23・719億円⇒FY26・1,000億円（成長率39%・平均13%/年）

- 株主還元の基本方針は「**安定的・継続配当**」、**過去一度も減配なし。**  
基本方針は従来から変更ないものの、**中計期間中の配当性向は30%以上。**  
自己資本額の適正化に向けて、新中計期間中に700億円を目途に自己株式取得を計画。

## 免責事項

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報での判断および仮定に基づき予測算定しております。この当社判断や仮定による不確定性および今後の事業運営や経済環境など、内外の状況変化による変動可能性如何によっては、実際の業績などが見通しの数値と異なる可能性があります。

## IR・投資家情報

<https://corporate.saisoncard.co.jp/ir/>

## 統合レポート2024

[https://corporate.saisoncard.co.jp/ir/integrated\\_report/](https://corporate.saisoncard.co.jp/ir/integrated_report/)



# < appendix > 社外からの評価（一例）

## ■ ESG評価

GPIFが採用する6つのESG指数のうち、  
5つの構成銘柄に選定



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

2024年  
初選定

2024 CONSTITUENT MSCI日本株  
ESGセレクト・リーダーズ指数

2024 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

## ■ IRサイト評価

主要な2つのサイトランキングで  
最優秀賞 & 銅賞をW受賞



2024年  
初選定



## ■ DX評価

DX推進の実績が評価され、DX銘柄は2年連続選定

